

「自らの命は自ら守る」意識を持ち

適切な避難行動をとりましょう!

# 防 災



雨竜町

Uryu Town  
Disaster Prevention Hazard Map

# ハザードマップ



撮影場所: 第1町内の2

## 保 存 版

(2020年11月)



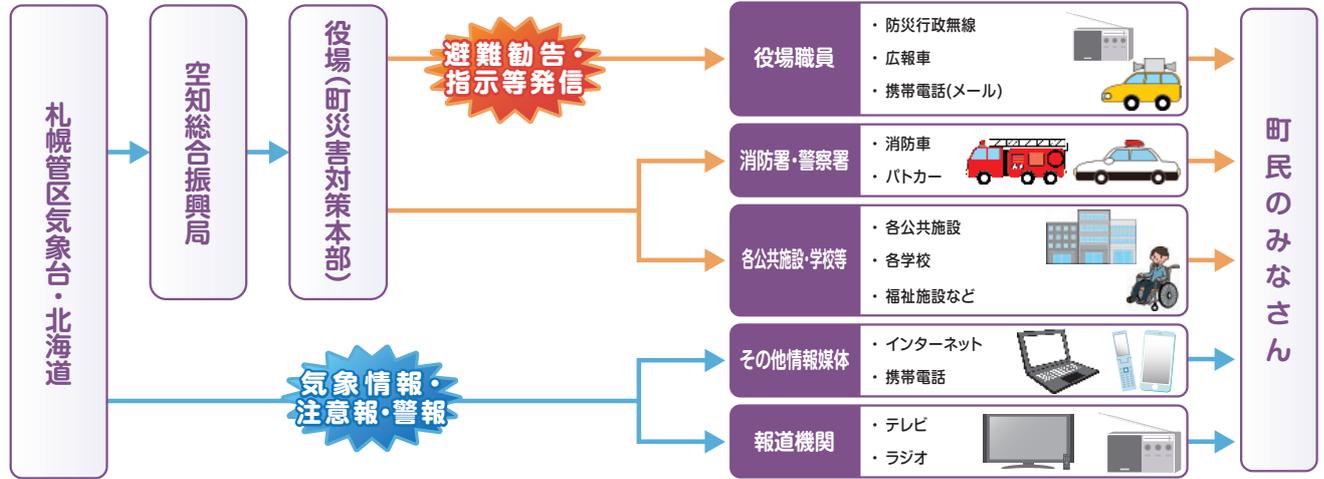
雨竜町役場  
総務課総務担当

〒078-2692 北海道雨竜郡雨竜町字フシコウリウ104番地  
電話0125-77-2211 FAX0125-78-3122  
HP <https://www.town.uryu.hokkaido.jp/>

# 災害の備え

## 災害情報の伝達経路

状況に応じて、気象情報・注意報・警報と避難命令（避難勧告・避難指示）は、図のように町民のみなさんに伝えられます。



## 町が出す避難情報と国や北海道が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた避難勧告や避難指示（緊急）などの避難情報を発信します。

危険度	避難情報等		防災気象情報	情報発信	
	警戒レベル	避難行動等	警戒レベル相当情報(例)		
危険度 ↑ 大	警戒レベル5	既に <b>災害が発生している</b> 状況です。 <b>命を守るための最善の行動</b> をとりましょう。	災害発生情報※1	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 等	町が発令
	警戒レベル4	<b>危険な場所から全員避難</b>	避難勧告・避難指示(緊急)※2	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等	
	警戒レベル3	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b>	避難準備・高齢者等避難開始	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 等	
	警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、 <b>自らの避難行動を確認</b> しましょう。	大雨注意報・洪水注意報	これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。	気象庁が発表
	警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報		
小					

注) 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

※1 災害が実際に発生していることを把握した場合に可能な範囲で発令

※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令

警戒レベル5【災害発生情報】、警戒レベル4【避難勧告・避難指示(緊急)】または警戒レベル3【避難準備・高齢者等避難開始】が発令された場合は、避難行動をとりましょう。

## 防災情報の入手

### 雨竜町 の情報

- 避難勧告などの発令情報
- 避難所開設情報
- 各種災害情報



雨竜町ホームページ  
<https://www.town.uryu.hokkaido.jp/>

雨竜町



雨竜町 Facebook  
<https://www.facebook.com/town.uryu/>

雨竜町フェイスブック

### 気象 情報

- 気象情報・注意報
- 台風・洪水・土砂災害などの  
防災気象情報



気象庁 札幌管区气象台  
<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

札幌管区气象台

### 水位 情報

- 雨量情報
- 水位情報
- ダム情報
- 洪水予報
- 水防警報



国土交通省「川の防災情報」  
<https://www.river.go.jp/>

川の防災情報

### 防災 情報

- 警報・注意報
- 地震
- 洪水
- 竜巻
- 土砂災害



北海道防災情報  
<https://www.bousai-hokkaido.jp/>

北海道防災情報

## 指定避難所・指定緊急避難場所一覧

指定避難所～災害によって自宅で生活できない人が一定期間の避難生活を行なう施設

名称	住所	収容人数	災害対応			
			洪水	土砂災害	地震	自家発電
コミュニティ防災センター	第1町内	15名		○	○	
川上地区コミュニティセンター	第3町内	17名	○		○	
牧岡地区コミュニティセンター	第5町内	23名	○	○	○	
渭の津地区コミュニティセンター	第6町内	17名	○	○	○	
公民館	第8町内	295名	○	○	○	○
ふれあいセンター	第8町内	120名	○	○	○	
農村環境改善センター	第8町内	360名	○	○	○	
高齢者健康福祉センター（いきいき館）	第10町内	102名	○	○	○	
小・中学校	第10町内	142名	○	○	○	
追分地域コミュニティセンター	第11町内	56名	○	○	○	

指定緊急避難場所～災害時の危険を回避するために一時的に避難する場所

名称	住所	収容人数	災害対応		
			洪水	土砂災害	地震
史跡公園	第3町内	2,000名		○	○
川上農村公園	第3町内	300名	○		○
牧岡農村公園	第5町内	200名	○	○	○
渭の津地区コミュニティセンター駐車場	第6町内	100名	○	○	○
スポーツセンター総合グラウンド	第8町内	2,100名	○	○	○
メモリアルパーク	第8町内	900名	○	○	○
小・中学校グラウンド	第10町内	2,200名	○	○	○
スポーツセンター追分グラウンド	第11町内	1,600名	○	○	○
追分農村公園	第11町内	100名	○	○	○

# 風水害に備えて

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
 ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、  
 確実な情報が大事  
 その次に迅速な対応



### 強風注意報・暴風警報

**強風注意報:**  
 平均風速が 12m/s と予想される場合

**暴風警報:**  
 平均風速が 18m/s と予想される場合

### 大雨注意報

大雨によって被害が起こる  
 おそれがあると予測される場合。

### 大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる  
 おそれがあると予測される場合。

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量 100mm

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量: mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

## 風の強さと吹き方

(平均風速: m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

## 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。  
 発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、  
 気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

## 水害時の心得

### 被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



### 危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。  
 また、氾濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



### 避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



### 水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



### 避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。  
 風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水の恐れがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。



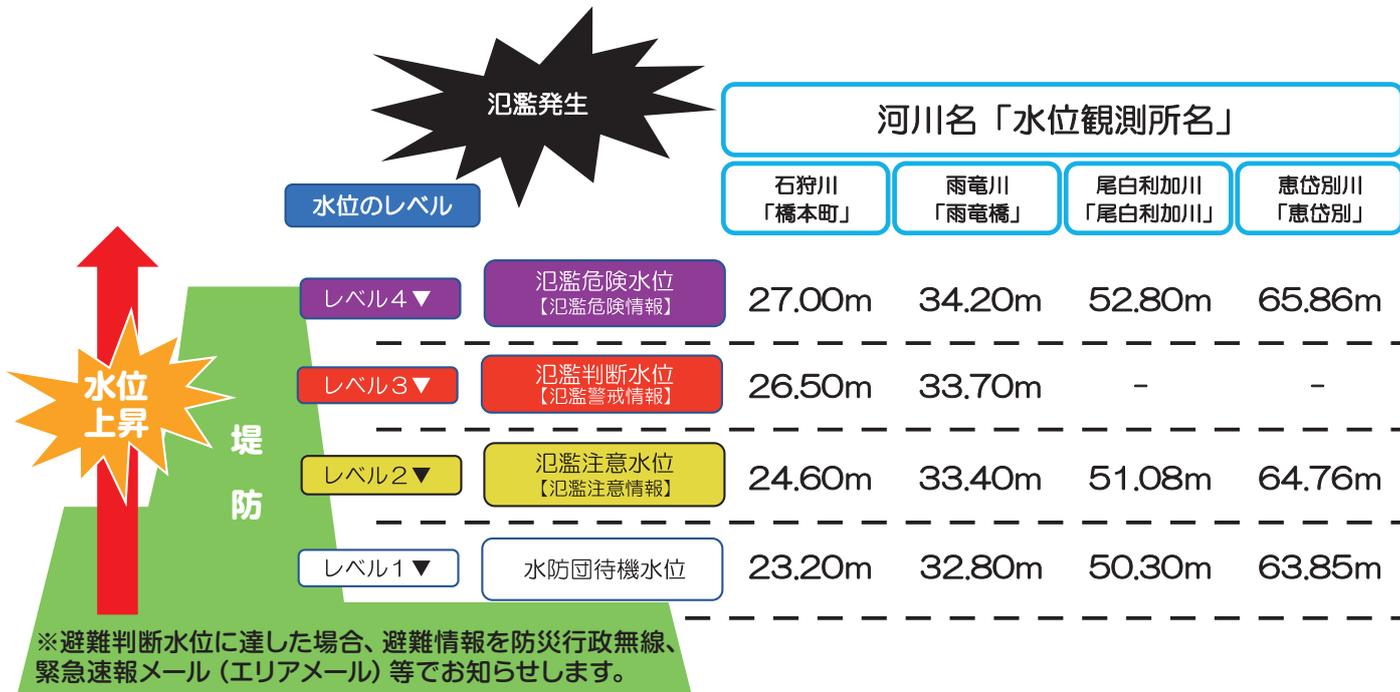
### 歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



## 河川水位の危険度レベル

気象庁から記録的短時間大雨情報が発表されるほどの雨が降ると、浸水被害や崖崩れなどの土砂災害が発生します。避難する際には、気象庁からの気象情報や防災行政無線からの情報に十分注意し「命を守る行動」をとってください。



### 水防団待機水位 (指定水位)

一定の水位上昇により、水防団が活動の準備を開始します。

気象庁から発表される最新の気象情報に注意し、警戒を強めてください。また、避難に時間を要する人（高齢者・障がいのある方、乳幼児など）とその支援者は避難の準備を開始しましょう。

### 氾濫注意水位 (警戒水位)

災害が発生する危険性がある水位。水防団が河川の警戒に当たる水位です。

### 氾濫判断水位

市町村による「避難準備・高齢者など避難開始」の発令基準となる水位で、住民の避難の判断の参考となります。

避難に時間を要する人とその支援者は避難を開始し、その他の人は避難の準備を整えましょう。

### 氾濫危険水位 (特別警戒水位)

避難勧告などの発令基準であり重大な災害が起こる恐れがある水位です。

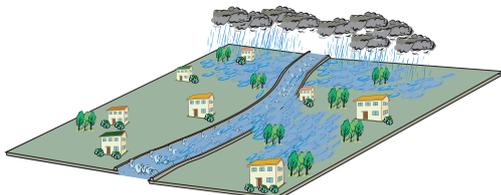
速やかに避難所へ避難しましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。

## 川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはげきせずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



# 土砂災害について

## 土砂災害の種類

土砂災害は大きく分けてがけ崩れ・地すべり・土石流の3種類があります

### がけ崩れ・山崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。



#### 主な前兆

- がけからの水がにごる
- 地下水やわき水が止まる
- 斜面がひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がある
- 異様なにおいがする

### 地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。



#### 主な前兆

- 地面にひび割れができる
- 井戸や沢の水がにごる
- がけや斜面から水がふき出す
- 家やよう壁に亀裂が入る
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く

### 土石流

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。



#### 主な前兆

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の水がにごったり、流木が混ざったりする

## 危険箇所をチェックしよう

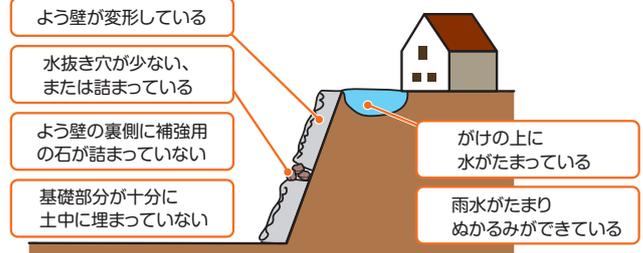
勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。

また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

### こんな崖に注意!!



### こんなよう壁に注意!!



## 土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに警戒を呼びかける情報で、北海道と気象庁が共同で発表しています。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難をしましょう。

### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に**危害**が生ずるおそれがあると認められる土地の区域

### 土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

住民等の生命又は身体に**著しい危害**が生ずるおそれがあると認められる土地の区域

## 避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 2 がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(水平避難)する。
- 3 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(垂直避難)することも考慮しましょう。
- 4 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
- 5 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。



## 火災発生!そんなときどうする

### 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1  
2

#### 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ、やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

#### 早く消火する

- まずは消火器で初期消火する。消火器がなければ水をかける、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。
- 危険を感じたら初期消火を行わずにすぐ逃げる。



#### 火元別初期消火のコツ

##### 油なべ

水をかけるのは厳禁。可能であればコンロの火は消すこと。消火器がなければなべに合う蓋が濡らした大きめのタオルやシーツ等を手前からかけて消火を。

##### 石油ストーブ

火のついた石油に水をかけると、石油が飛び散り危険。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツ等でストーブを覆い、その上から水をかけて消火を。

##### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

##### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。徐々に戸を開けて一気に消火を。

##### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

##### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

#### 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を絶つ。



### 消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけて上に引き抜く。



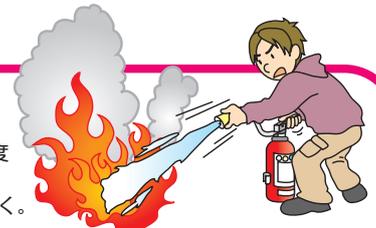
ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

#### 消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。3m程度の距離を保つ。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



## 火災予防が一番!!

### 住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

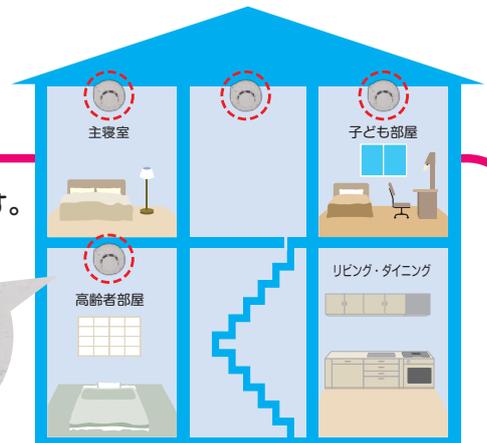
#### 住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。

注意:住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年と変わりますので、早めの交換をお願いします。警報器の音を事前に確認することも重要です。



火災警報器



住宅内取付位置図

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル



### 揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら

- まず、手近な座布団などで頭を保護するなどの避難行動をとる
- 大きな揺れが来る前に、テーブルや机の下などで身の安全を確保する



### 揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、ブロック塀・自動販売機等に注意



### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう**
- 隣近所で助け合う 災害弱者の安全確保
  - 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火**
- 初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
  - 漏電・ガス漏れに注意 ガスの元栓・電気のブレーカーを切る ●余震に注意



### ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時には車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



### 協力して消火活動、救出・救護活動を

- 災害情報・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●こわれた家に入らない
- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく



## 屋内にいた場合

### 家の中

- ・緊急地震速報を見聞きしたり、揺れを感じたら、すばやく身の安全を確保する。
- ・火の使用中に揺れを感じたら、揺れが収まってからあわてずに火の始末をする（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- ・乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。裸足で歩き回らない。（ガラスの破片に注意！）

### デパート・スーパー

- ・カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### 集合住宅

- ・ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ・避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

### 劇場・ホール

- ・カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてず冷静な行動をとる。

## 屋外にいた場合

### 路上

- ・その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ・近くに空き地などのないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ・ブロック塀や自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

### 電車などの車内

- ・つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ・途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- ・乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

### 車を運転中

- ・ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ・揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ・避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



# 地震の震度表

震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歩いている人のほとんどが揺れを感じる。</li> <li>● 眠っている人のほとんどが目覚めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電灯などが大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。</li> <li>● すわりの悪い置物が倒れることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電線が大きく揺れる。</li> <li>● 自動車を運転していて揺れに気づく人がいる。</li> </ul>
5弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと思う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電灯などの吊り下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。</li> <li>● すわりの悪い置物の大半が倒れる。</li> <li>● 固定していない家具が移動することがあり、不安定な物は倒れることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。</li> <li>● 電柱が揺れるのがわかる。</li> <li>● 道路に被害が生じることがある。</li> </ul>
5強	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大半の人が物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 棚にある食器類や書棚の本で落ちる物がある。</li> <li>● テレビが台から落ちることがある。</li> <li>● 固定していない家具が倒れることがある。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 窓ガラスが割れて落ちることがある。</li> <li>● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。</li> <li>● 据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。</li> <li>● 自動車の運転が困難となり、停止する車もある。</li> </ul>
6弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 立っていることが困難になる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固定していない家具の大半が移動し、倒れる物がある。</li> <li>● ドアが開かなくなることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。</li> </ul> 
6強	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 立っていることが出来ず、はわないと動くことが出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。</li> <li>● 補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 揺れに翻弄され、動くことも出来ず、飛ばされることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。</li> <li>● 補強されているブロック塀も破損する物がある。</li> </ul>

## ●カセットコンロ、発電機等の準備

IH 調理器や給湯、暖房設備は使用できませんので、カセットコンロ、ポータブルストーブ、発電機などを準備しましょう。オール電化の家は注意をしましょう。

## ●水の確保を準備

断水し、トイレも流せなくなります。飲料水の確保やお風呂に水をためるなどの準備をしましょう。

## ●モバイルバッテリー、ラジオの準備

携帯電話やスマートフォンは、家族との連絡や情報の入手に必要です。日頃から充電を心がけましょう。乾電池式のモバイルバッテリー、ラジオも準備しましょう。

# 停電への備え

## ●停電復旧時の火災に注意

停電復旧時に電気が通ると火災の恐れがありますので、停電時はブレーカーの電源を落とし、復旧後に電源を入れるようにしましょう。

## ●医療機関の準備

医療機関を受診している方は、停電時の対応方法を主治医に相談しておきましょう。

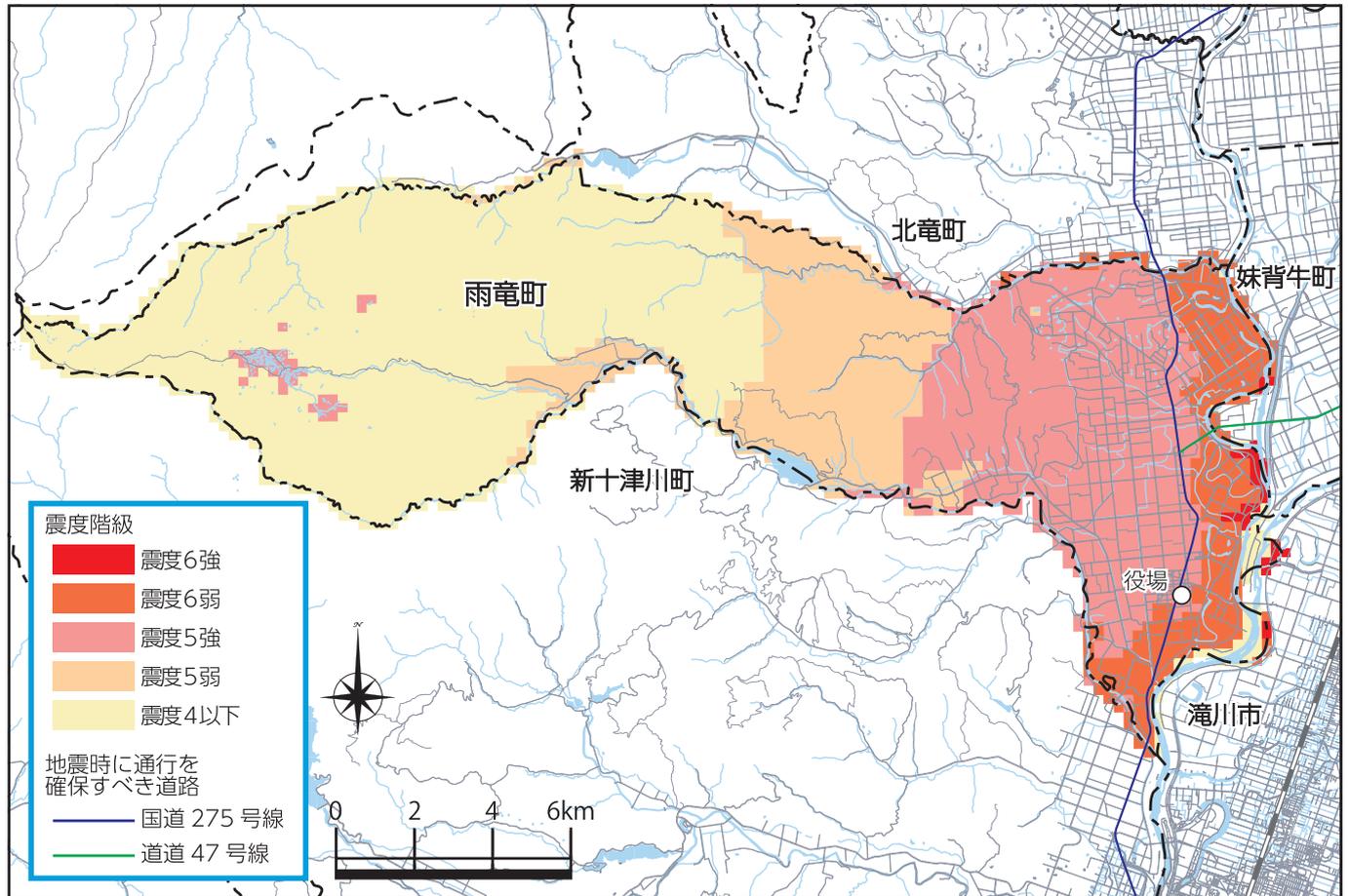
## ●車のガソリンは多めに準備

車が使えらると、暖をとったり、テレビ、ラジオの情報入手やシガーソケットからの充電が可能となりますので、日ごろからガソリンは多めにしておきましょう。

# 揺れやすさマップ

本町に最も大きな被害をもたらす地震の「沼田-砂川付近の断層帯による地震」で最大規模の地震が発生した場合の揺れやすさマップです。

全道を 500mメッシュ（約 500m角の正方形）に分割したメッシュ毎に計算した震度を雨竜町に置き換えて表示しています。



## 家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

1

### ■家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2

### ■寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



3

### ■家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4

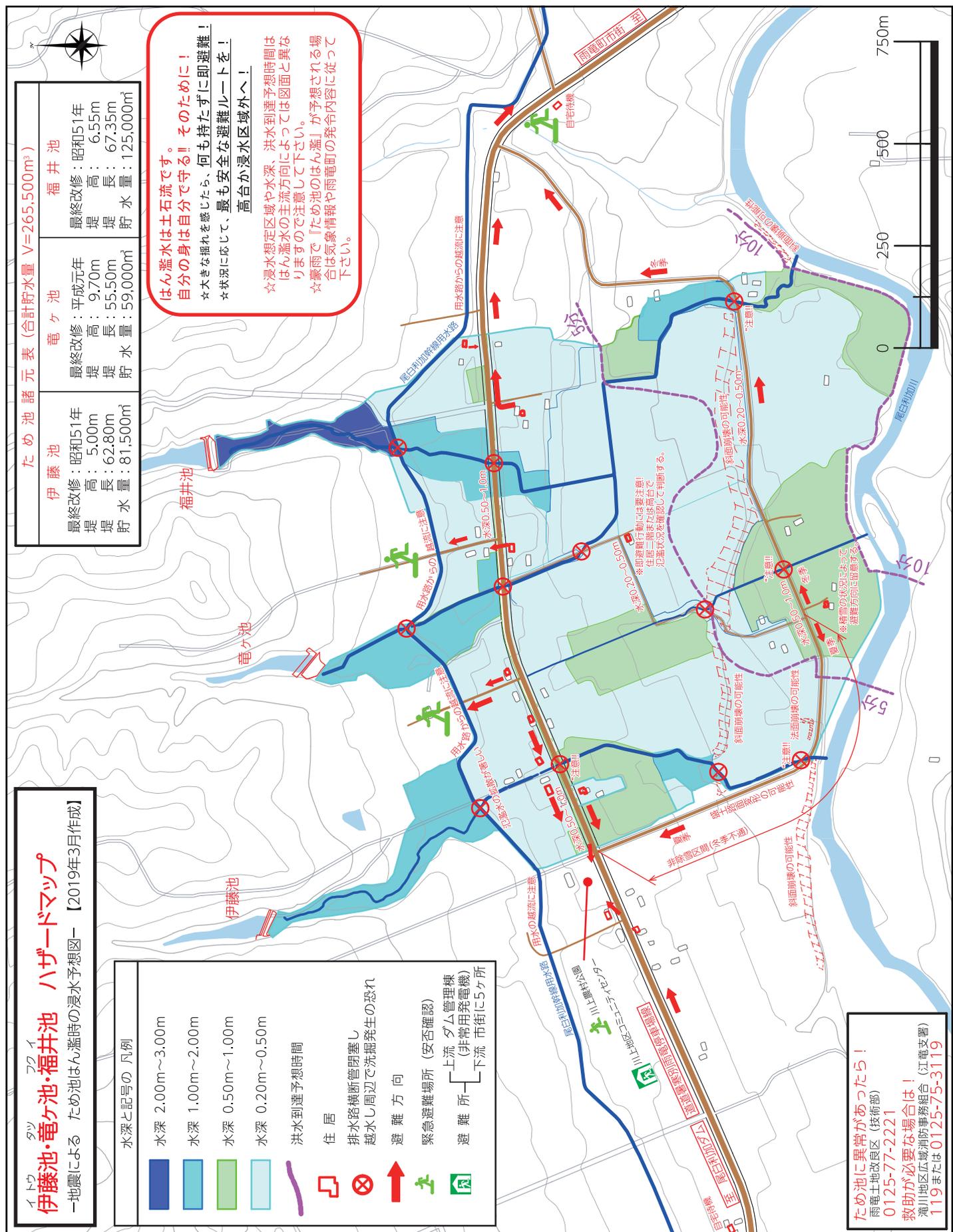
### ■安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



# ため池ハザードマップ

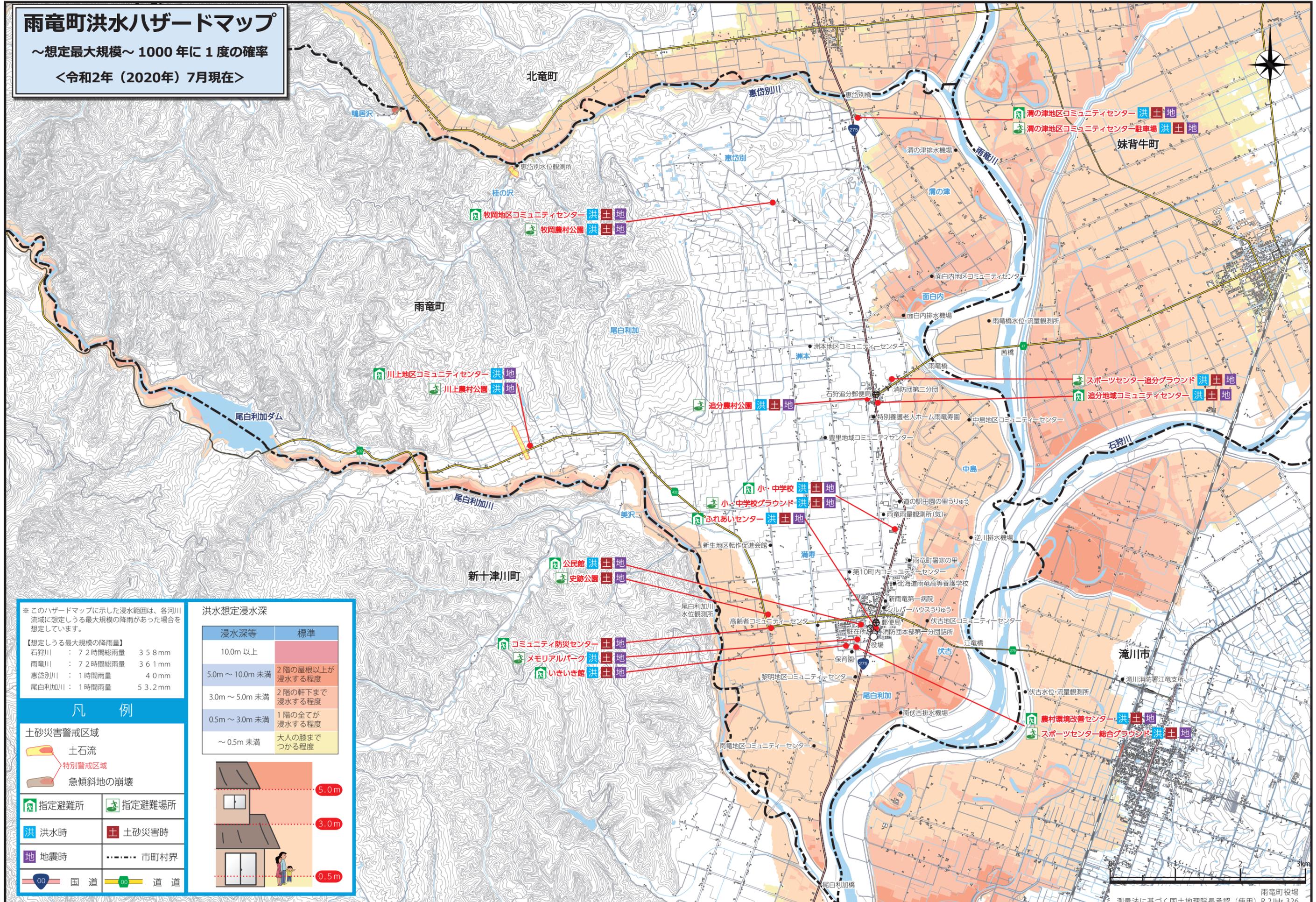
ため池ハザードマップとは、ため池が破堤した場合を想定し、浸水範囲や避難場所等に係る情報を提供し、被害を最小限に止めることを目的としたものです。



# 雨竜町洪水ハザードマップ

～想定最大規模～ 1000年に1度の確率

<令和2年(2020年)7月現在>



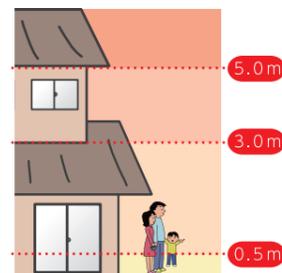
※このハザードマップに示した浸水範囲は、各河川流域に想定しうる最大規模の降雨があった場合を想定しています。

【想定しうる最大規模の降雨量】

石狩川	72時間総雨量	358mm
雨竜川	72時間総雨量	361mm
恵岱別川	1時間雨量	40mm
尾白利加川	1時間雨量	53.2mm

## 洪水想定浸水深

浸水深等	標準
10.0m以上	
5.0m～10.0m未滿	2階の屋根以上が浸水する程度
3.0m～5.0m未滿	2階の軒下まで浸水する程度
0.5m～3.0m未滿	1階の全てが浸水する程度
～0.5m未滿	大人の膝までつかる程度



## 凡例

- 土砂災害警戒区域
  - 土石流
  - 特別警戒区域
  - 急傾斜地の崩壊
- 指定避難所
- 指定避難場所
- 洪水時
- 土砂災害時
- 地震時
- 市町村界
- 国道
- 道道

# 要配慮者とは？

災害が発生したときは、高齢者や心身に障がいのある人、子どもや妊婦などの要配慮者の方には特別な配慮が必要です。身近にいる要配慮者の方々への手助け、心くばりを心がけてください。

## 対象となる方は

- 介護・支援が必要な高齢者
- 知的障がいのある方
- 肢体不自由のある方
- 精神の障がいのある方
- 内部障がいのある方
- 妊産婦、乳幼児
- 視覚に障がいのある方
- 保育園児・小学生
- 聴覚に障がいのある方
- 日本語が不自由な外国人
- 音声・言語機能障がいのある方
- 災害時負傷者、帰宅困難者、旅行者

## 災害時等避難行動要支援者

雨竜町では、要配慮者のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難で、特に支援を必要とする方々を『災害時等避難行動要支援者』として把握し、支援します。

- ①身体障害者手帳を有し、障害の程度が1級及び2級の方
- ②療育手帳を有する方
- ③精神障害者保健福祉手帳を有し、障害の程度が1級及び2級の方
- ④要介護認定者で要介護3以上の方
- ⑤一人暮らしの高齢者の方
- ⑥高齢者のみの世帯の方
- ⑦妊産婦及び乳幼児
- ⑧特定疾患医療受給者証を有する方
- ⑨その他町長が必要と認める方

ただし、本人自ら、又は同居者の支援で避難できる方、同じ地区に住んでいる子供や孫の協力で避難ができる方は除きます。



## 避難支援等関係者による支援

災害が起こり避難勧告や避難指示があった時、避難支援等関係者による避難支援(災害に関する情報を伝えてもらったり、一緒に避難するなどの支援)や安否確認が行われます。

ただし、避難支援者が被災するなどにより、支援を受けられない場合もありますので、確実な避難を約束するものではありません。

# 非常時持出品の準備 & チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

## 非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

新型コロナウイルス感染対策のために、マスク・アルコール消毒液・体温計や上履き・ごみ袋などを持参しましょう。

### 携帯電話・ラジオ・懐中電灯



- 携帯電話 (スマートフォン)
- ラジオ
- 懐中電灯
- 電池 (多めに用意)

### 救急医療品・衛生用品



- 持病薬
- 絆創膏
- マスク
- 傷薬
- 包帯
- アルコール消毒液
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 体温計
- 鎮痛剤
- お薬手帳

### 貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 運転免許証
- 健康保険証
- マイナンバーカード

### 非常食品



火を通さなくて食べられるもの、食器など

- カンパン
- 缶詰
- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ

### その他



- 衣類 (下着・上着など)
- 生理用品
- 離乳食
- ウェットティッシュ
- ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)
- 上履き
- タオル
- 粉ミルク
- 紙おむつ
- 雨具
- ライター
- 防寒具 (季節による)

## 非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間 (最低3日) を生活できるようにチェック☑しましょう。

### 飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター (1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したポリタンクなど

### 非常食品



- お米 (アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ (菓子類など)

### 燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料
- ポータブルストーブ

### その他



- 携帯電話充電器・モバイルバッテリー
- 生活用水 (風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具 (なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など
- ビニール袋
- 使い捨てカイロ

## 非常時持出品は定期的に点検を!

### 避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具 (マジックなど)、スコップなど



### 阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど

非常時持出品は、使用するときに支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

# わが家の防災・緊急情報メモ



災害時・緊急時の連絡先などの情報をまとめておきましょう。  
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

## 緊急情報

わが家の  
避難場所

わが家の  
集合場所

## 家族の連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	メモ(持病・かかりつけ医・携帯電話番号など)
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh (+/-)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh (+/-)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh (+/-)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh (+/-)	
	T・S・H・R 年 月 日	型 Rh (+/-)	

## その他の連絡先

名前	電話	住所	メモ
		〒	
		〒	
		〒	

## 緊急連絡先



警察

110

消防

119

## 災害用伝言サービス

安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう



災害用伝言ダイヤル

171

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言板」です。



録音

171 → 1 →

□□□□□□□□□□ →

伝言の録音



再生

171 → 2 →

□□□□□□□□□□ →

伝言の再生

案内放送が流れます

被災地の方の電話番号を市外局番から



携帯電話災害用伝言板サービス

大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否状態を登録することが可能になり、登録された伝言は、インターネットや携帯電話などから確認することができます。

※使用にあたっては、各携帯電話会社のホームページで確認しておきましょう。

※詳しい内容はNTTのホームページで確認してください。 [ホームページ](https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/) https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/